



世界各国から日本を訪れた観光旅行者の体験談として、必ず「日光」が話題の中心になるそうです。そして旅行スケジュールの中に日光を落としてはならぬ事を強調するとの事です。

しかし、最近の観光客の感想を聞くと「私たちは日光に来て非常によかった。できれば二、三日滞在して、ゆっくり日光を見物したいが、日帰コースのために残念ながら帰らねばならぬ」と、日帰旅行で日光を訪れたことを非常に残念がっているこれは観光客の日本訪問のスケジュールが外国で立てられているためであり、東京を起点とする日帰外来観光客が最近では非常に多くなってきており、これらに対する対策が望まれるわけです。この原因の第一は東京日光

間の時間的距離が短縮化された事に起因するようですが、特にオリンピック期間中の日光での受け入れの悩みは、限られた一定の時間内での観光または昼食休憩等すべてが集中化される事ではないでしょうか。



所の施設もじゅうぶんでない。自動車も早くから予約しておかないと利用できない。あるいはサービス関係者も混雑多忙のために不親切になりがちとなる。こんなことでは観光客に不愉快な感じを与え、せっかくの旅行の快適さが粗悪されてしまう。「二度と、日光へは行きたくない」との悪評がたつたら、その影響はひどいように、大きいと思

オリンピックを
迎えるにあたって

金谷ホテル支配人 森 恒 雄

時期が10月の最盛期であるが観光客にじゅうぶんなサービスをして、今まで苦労して育て上げてきた日光の名声をけがさぬ事が重要な課題だと思います。また観光面では観光客の最も期待している東照宮が混雑のためにじゅうぶん観賞できない。華厳エレベーターが行列して待たねば利用できない。公衆便

この対策としては交通機関輸送力の強化により集中化の緩和衛生施設の増設および整備、外来客接遇面では語学の勉強、旅行に関するサービス案内の質の向上などがあげられますが、要は市民全員が言葉は不自由でも遠来の客に対して温かい気持ちで親切に接遇する事につきると思

います。オリンピックを目標に昼夜をあげて営業施設(客室、食堂その他)の整備および改造、衛生設備の増設あるいは外客接遇面ではサービス関係者の再訓練などに全力をあげています。要はホテルだけの問題でなく全市民が外客歓迎に処する熱意と協力が要望される由因でもあります。

ての不満をカバーする事でしよう。オリンピック終了後の観光事業は、これを契機として世界のどの国も大きいのびており、とくにイタリアなどはその大なる例であります。要はオリンピックのお客をじゅうぶん満足させる事が今後の観光地日光の発展を左右する鍵ではないかと思

が必要であるかがうかがわれる。また焼失面積から見てもかかるように、火災が大きくなるのは通報を忘れて内々で消しているためであり大火を防ぐにはどんな小さな火事でも消防に知らせることが必要である。

(救急) 出動回数百二十七回(昨年は八十九回、ただし4月業務開始)を数え、搬送人員百五十三人(男百十九・女三十四)になっている。このうち交通事故が五十六回、服毒未遂十八回その他五十三回となっている。出動回数が多い交通事故ではその大半が酔っばらい運転、スピードの出しすぎであり、運転者は交通消滅を守って事故防止にあたるよう常日頃の心構えが必要である。

トピックス

消防白書にみる

市内の火災と救急

どんな小さな火事でも消防署に知らせよう

昭和38年中の日光市内に起こった火災と救急出動の統計がまとまり、消防白書として提出され市民に注意を促し協力を求める

ことになった。(火災) 火災件数二十七件(昨年は三十四件)その内訳は建物炎上火災三件、半焼一件、小火

四件、山林火災その他十九件となっており、このほかに消防に知らせず家庭用消火器などで消し止めて大事にならなかった火

災が十五件もあった。損害見積額は五千二十五万七千五百円、建物焼失面積四千三百九十六平方メートル、山林焼失面積一七三アールとな

スキーパトロール出動

湯元スキー場

雪不足で悩んでいた奥日光湯元スキー場は、1月17日からの降雪でやっと活気をとれどし、19日の日曜日には多数のスキーヤーが押しかけた。

この日、警察署、市役所、東武鉄道では合同スキーパトロールを出動させて各ゲレンデを廻り、負傷者の収容などを行ない好評だった。

〔写真 スキーパトロール〕

